

みなみはしまん

# 南八幡遺跡 11

—第21次調査報告—



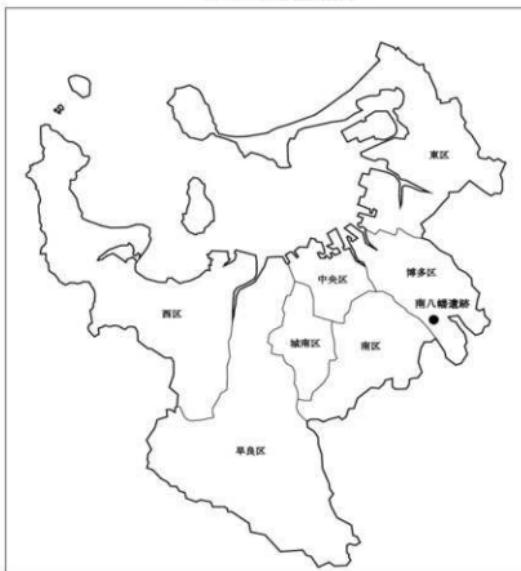
2023  
福岡市教育委員会



みなみはしまん

# 南八幡遺跡 11

—第 21 次調査報告—



遺跡略号 MHM - 21

調査番号 2104

2023  
福岡市教育委員会



## 序

玄界灘に面して広がる福岡市は、古くから大陸・半島との窓口として発展し、市内には数多くの遺跡・埋蔵文化財が存在します。その一方で都市の発展に伴う開発行為により、やむを得ず失われる遺跡・埋蔵文化財が数多くあり、これらを後世に伝えることは、本市の重要な責務であります。本市教育委員会では、失われる遺跡については事前に発掘調査を行い、その記録保存に努めています。

本書は、福岡市博多区寿町2丁目117番1、117番2地内における共同住宅建設に伴い実施した南八幡遺跡第21次発掘調査について報告するものです。

今回の調査では古代の竪穴住居跡・土坑・ピット状遺構を検出するとともに、竪穴住居跡内から土師器等の遺物が出土しました。これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になると共に、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、事業主様をはじめとする関係者の方々には、発掘調査から本書の作成に至るまで、ご理解とご協力を賜りました。ここに心からの感謝を表します。

令和5年3月23日

福岡市教育委員会

教育長 石橋 正信

## 例言・凡例

1 本書は、福岡市博多区寿町2丁目117番1、117番2地内における共同住宅建設事業に先だって、福岡市教育委員会が、令和3年度に発掘調査を実施した南八幡遺跡第21次調査の報告書である。発掘調査及び整理報告書作成は、民間受託事業として実施した。

2 本書における作業分担は以下の通りである。

遺構実測	中園将祥
遺物実測	中園・野村美樹
トレース	中園
遺構写真・遺物写真撮影	中園
執筆	中園
編集	中園

3 本書で使用した方位は座標北であり、座標は世界測地系（第II系）を用いている。

4 遺跡略号は MHM-21( 南八幡遺跡第21次調査 )・遺構略号は SC( 積穴住居跡 )、SK( 土坑 )、SP( ピット )とするが、本文では遺構略号は使わずに「1号積穴住居跡」「1号土坑」などと記載する。

また出土遺物へは「MHM21 SC-01」「MHM21 SK-01」などと遺跡・遺構略号で注記を施す。

5 本書に関わる図面・遺物・写真等の管理は、全て福岡市埋蔵文化財センターで行う予定である。

6 本書で報告する調査の基本情報は下表の通りである。

遺跡名	南八幡遺跡	調査次数	21次	遺跡略号	MHM-21
調査番号	2104	分布地図図幅名	麦野12	遺跡登録番号	0051
事業対象面積	569.86m <sup>2</sup>	調査対象面積	250.00m <sup>2</sup>	調査面積	215.00m <sup>2</sup>
調査期間	令和3年4月12日～令和3年5月25日			事前審査番号	2020-2-880
調査地	福岡市博多区寿町2丁目117番1、117番2				

## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに .....	1
(1) 調査に至る経緯 .....	1
(2) 調査の組織 .....	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境 .....	2
(1) 遺跡の位置と立地 .....	2
(2) 遺跡の歴史的、地理的環境 .....	2
第Ⅲ章 発掘調査の記録 .....	5
(1) 調査の概要 .....	5
(2) 遺構と遺物 .....	8
1) 1号竪穴住居跡 .....	8
2) 1号土坑 .....	9
3) ピット状遺構 .....	9
(3) まとめ .....	11

## 挿図目次

第 1 図 調査地周辺遺跡分布図 (S=1/25000) .....	3
第 2 図 南八幡遺跡第 21 次調査位置図 (S=1/2500) .....	4
第 3 図 調査区配置図 (S=1/300) .....	5
第 4 図 遺構配置図 (S=1/100) .....	6
第 5 図 1号竪穴住居跡 (S=1/40) .....	7
第 6 図 1号竪穴住居跡出土遺物 (S=1/3) .....	8
第 7 図 1号土坑 (S=1/40) .....	9
第 8 図 ピット状遺構 (S=1/150) .....	10
第 9 図 第 2・3・21 次調査遺構配置図 (S=1/400) .....	11

## 写真目次

遺構写真 1	.....	12
遺構写真 2	.....	13
遺構写真 3	.....	14
遺物写真 1	.....	15

# 第Ⅰ章 はじめに

## (1) 調査に至る経緯

令和3(2021)年1月22日、福岡市博多区寿町2丁目117番1、117番2地内における共同住宅建設について、福岡市経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課事前審査係に、照会文書が提出された（事前審査番号 2020-2-880）。申請地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である南八幡遺跡に含まれております。令和3年(2021)年2月9日の試掘調査にて地表面下80cmで遺構の存在が確認され、事前に埋蔵文化財の記録保存のために発掘調査が必要であるとの結論に達した。この成果を受けて、埋蔵文化財課では申請者と協議を行い、事業対象面積569.86m<sup>2</sup>のうち遺跡の破損が考えられる250.00m<sup>2</sup>について、発掘調査を行い、記録保存を図る事で協議が成立した。

発掘調査は、令和3(2021)年4月12日～令和3(2021)年5月25日に行い、調査面積215.00m<sup>2</sup>、遺物はコンテナボックス1箱分が出土している。資料整理及び報告書作成は、翌令和4(2022)年度に行う事となった。

なお現地での発掘調査にあたっては、調査委託者をはじめとする関係者の皆さまには多大なご理解と協力を賜りました。ここに記して謝意を表します。

## (2) 調査の組織

調査を実施した令和3(2021)年度、および資料整理・報告を実施した令和4(2022)年度の組織は以下の通りである。

調査委託：	株式会社 クレ・コーポレーション	
調査主体：	福岡市教育委員会	
調査総括：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	課長 菅波正人 (3 年度)
整理報告総括：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	調査第1係長 本田浩二郎 (3 年度)
調査庶務：	経済観光文化局文化財活用部文化財活用課	課長 菅波正人 (4 年度)
整理報告庶務：	経済観光文化局文化財活用部文化財活用課	調査第1係長 本田浩二郎 (4 年度)
事前審査：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	管理調整係 内藤愛 (3 年度)
		管理調整係 内藤愛 (4 年度)
		事前審査係長 田上勇一郎 (3 年度)
		事前審査係長 田上勇一郎 (4 年度)
		事前審査係 山本晃平 (3 年度)
		事前審査係 三浦悠葵 (4 年度)
調査担当：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	中國将祥 (3 年度)
整理報告担当：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	中國将祥 (4 年度)

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### (1) 遺跡の位置と立地

福岡平野とは、東を三郡山地、南を脊振山地によって囲まれ、北は玄界灘に向かって開口する博多湾に面した地の総称であり、多々良川等によって形成された糟屋平野・御笠川・那珂川流域に広がる狭義の福岡平野、室見川流域に広がる早良平野に細分できる。

南八幡遺跡は、大野城市・春日原市と接した福岡市の南端に位置し、狭義の福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた標高 20 m 前後の洪積台地上に立地する遺跡である。

### (2) 遺跡の歴史的、地理的環境

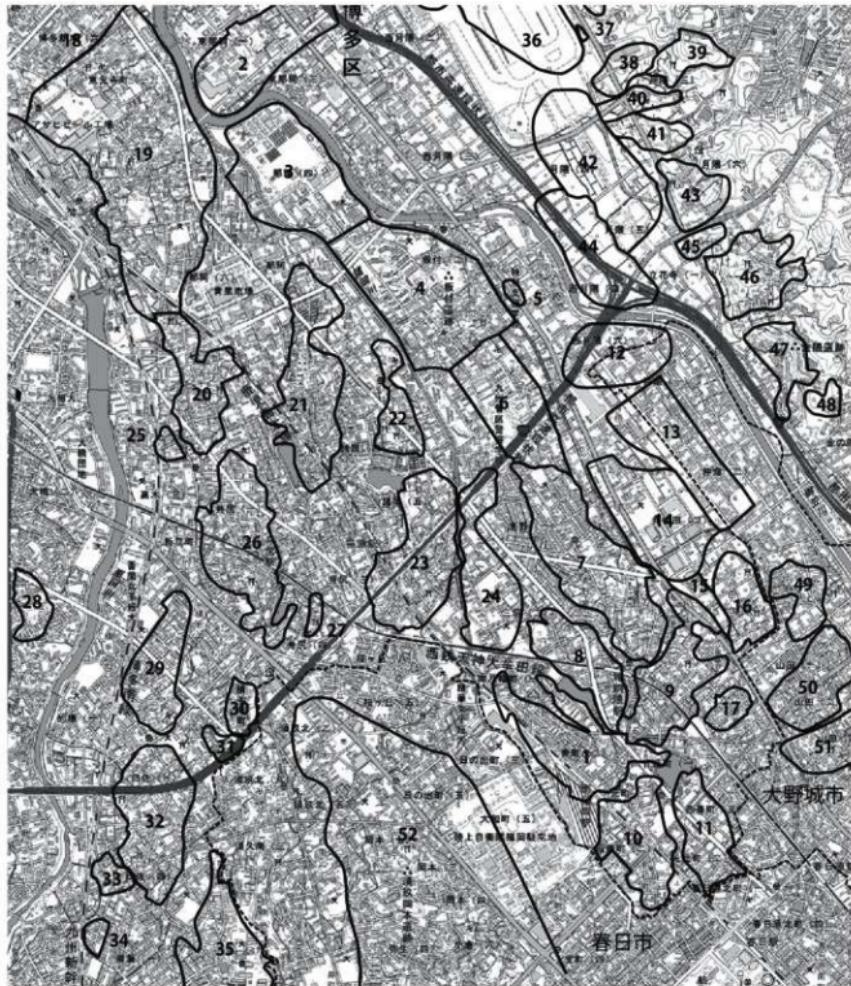
南八幡遺跡（第1図1）は、那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地にある春日丘陵の東側にのびる丘陵である雑餉隈丘陵上の南西側にあり、春日丘陵には奴国王墓とされる須玖・岡本遺跡（第1図52）が存在する。雑餉隈丘陵の東側には御笠川、西側には諸岡川が流れ、これらの川の開析により多くの谷が入り込んでおり、いくつかの舌状の低丘陵を形成している。雑餉隈丘陵上には、麦野A遺跡（第1図7）、麦野B遺跡（第1図8）、麦野C遺跡（第1図9）、南八幡遺跡（第1図1）、雑餉隈遺跡（第1図10）、中ノ原遺跡（第1図11）が点在する。

南八幡遺跡では、これまでに 20 次にわたる調査（第2図）が行われており、旧石器時代においては、第1・3・9・12 次調査地点で石器が出土している。第1・3・9 次調査地点では、尖頭器や剥片など少數の遺物のみの出土であるが、第12次調査地点では、ナイフ形石器・台形石器・剥片など 300 点以上の石器が、まとまって出土している。続く縄文時代には、第6・7 次調査地点で、落とし穴と考えられる土坑が検出されているが、旧石器時代・縄文時代においては、遺構・遺物とともに、まばらな分布にとどまる。

弥生時代になると集落としての規模も広がり、第5・9・12・19 次調査地点では、竪穴住居跡・掘立柱建物跡が検出されている。特に第9次調査地点では、竪穴住居跡 8 棟・掘立柱建物跡 12 棟が検出され、弥生時代後期の2号竪穴住居跡からはガラス玉 68 点と辰砂が出土している。

古墳時代になると遺構の検出は希薄になり、古墳前期から中期にかけての遺構・遺物は、ほとんど検出されないが、第2・3 次調査地点では、古墳時代後期の竪穴住居跡および掘立柱建物跡が、まとまって検出されている。

古代には、掘立柱建物群を伴う大規模な集落域が広がる。8世紀中頃から後半にかけての奈良時代になると第2・3 次調査地点で竪穴住居跡 8 棟および掘立柱建物跡が検出されており、今回の第21 次調査地点で検出された竪穴住居跡は出土遺物などから、奈良時代 8世紀後半の遺構である。その後、平安時代に入ると集落域は急速に縮小していき、麦野A遺跡（第1図7）では9世紀以降の遺構も確認されるが、雑餉隈丘陵に点在するその他の遺跡では、9世紀以降の時期の遺構は、ほとんど確認されなくなる。



1. 南八幡道跡 2. 東那珂道路 3. 那珂君体道路 4. 板付道路 5. 板付東道路 6. 高傾道路 7. 麦野 A 道跡 8. 麦野 B 道跡  
 9. 友野 C 道跡 10. 雜瀬隈道路 11. 中ノ原道路 12. 井相田 D 道跡 13. 仲島道路 14. 井相田 C 道跡 15. 井相田 E 道跡  
 16. 井相田 A 道跡 17. 井相田 B 道跡 18. 比恵道路群 19. 那珂道路群 20. 五十川道路 21. 諸岡 A 道跡 22. 諸岡 B 道跡  
 23. 諸原道路 24. 三筑道路 25. 井尻 A 道跡 26. 井尻 B 道跡 27. 井尻 C 道跡 28. 三宅 C 道跡 29. 横千道路  
 30. 寺鳥道路 31. 笠拔道路 32. 日佐道路 33. 上日佐道路 34. 高椋道路 35. 弥永原道路 36. 下月隈 D 道跡  
 37. 下月隈越道路 38. 天神森道路 39. 下月隈 A 道跡 40. 下月隈 B 道跡 41. 上月隈道路 42. 下月隈 C 道跡  
 43. 上月隈 B 道跡 44. 立花寺 B 道跡 45. 文殊谷道路 46. 立花寺道路 47. 金隈道路 48. 金隈上星敷道路  
 49. 川原道路(大野城市) 50. 笠森道路(大野城市) 51. 宝松道路(大野城市) 52. 月隈・岡本道路(春日市)

第1図 調査地周辺遺跡分布図 (S = 1/25000)



第2図 南八幡遺跡第21次調査位置図 (S = 1/2500)

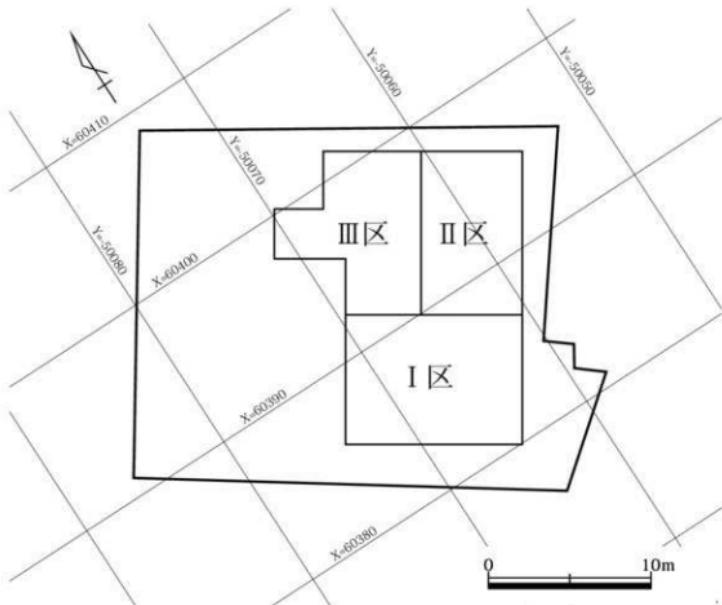
## 第Ⅲ章 発掘調査の記録

### (1) 調査の概要

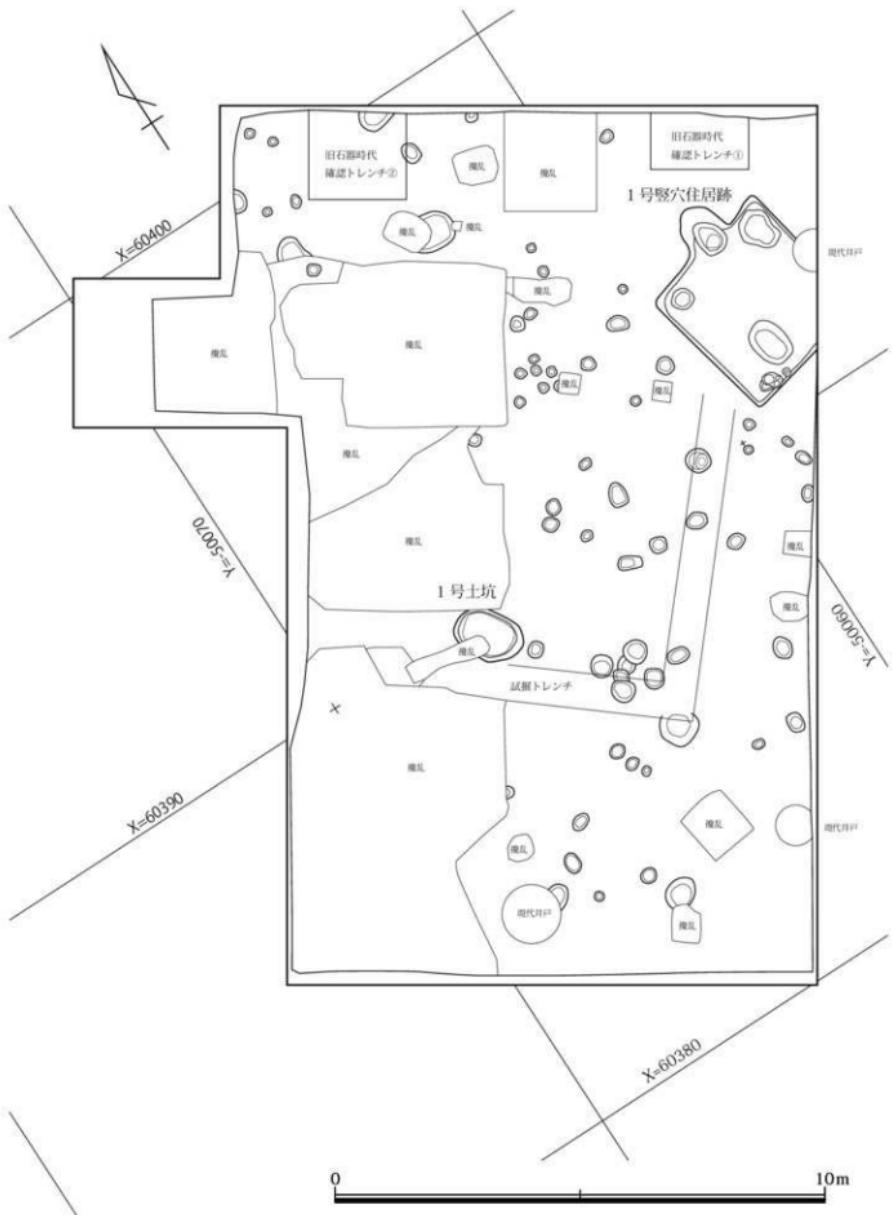
南八幡遺跡は、大野城市・春日市と接した福岡市の南端に位置し、福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する遺跡である。今回の第21次調査地点は遺跡の中心部に位置する。

発掘調査は、令和3年4月12日に、まず測量機器にて世界測地系による杭の設定等を行い、翌13日からI区を重機による表土剥ぎ取り後、人力による遺構検出作業、遺構の掘り下げ、1/20縮尺の遺構図の作成、遺物取り上げ、写真撮影等を行い、22日に高所作業車からI区の全景を撮影し、23日にI区の埋め戻し作業を行いI区の調査を終了した。その後4月26日よりII区の表土掘削を開始し、I区の調査と同じ手順で作業を進め、5月11日に高所作業車からII区の全景を撮影し、13日に埋め戻し作業を行いII区の調査を終了。同日にIII区の表土掘削をし、同じ手順で作業を進め、21日に埋め戻し作業を行った。

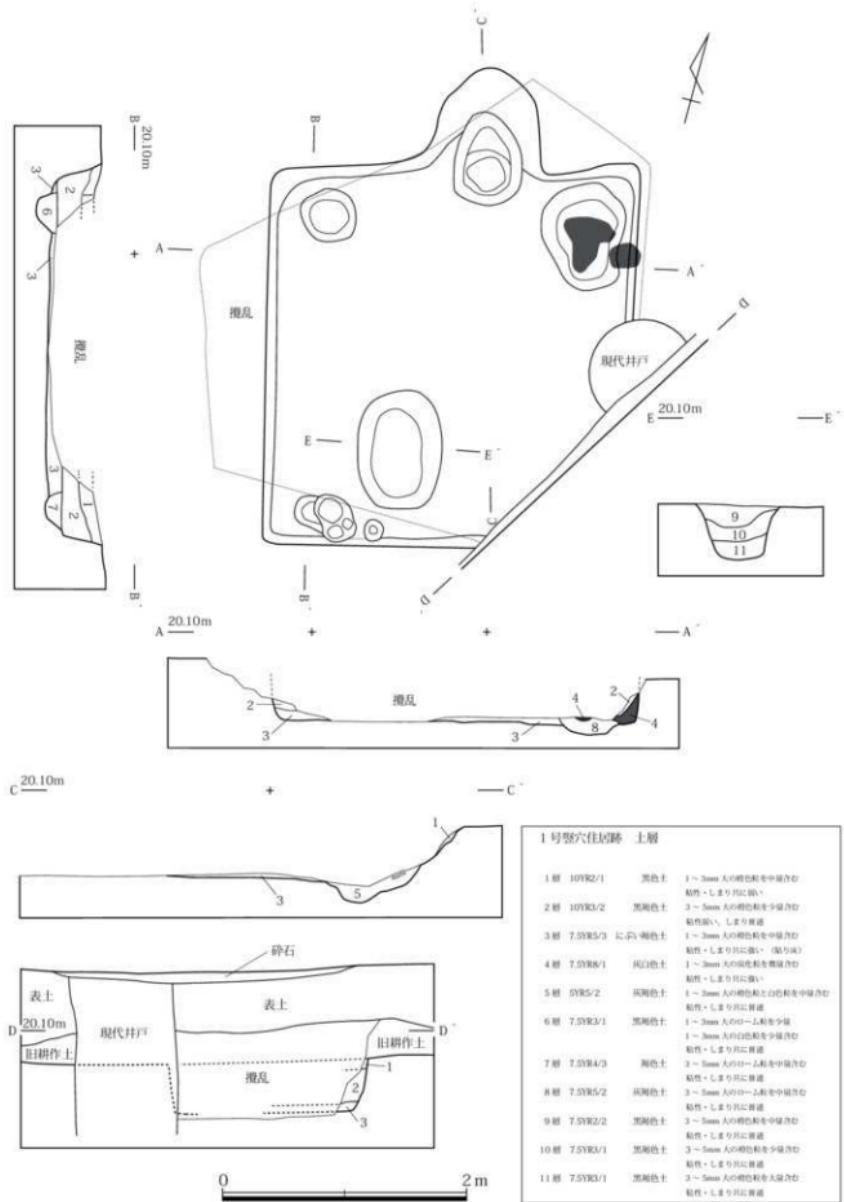
今回の調査で確認された遺構は、竪穴住居跡1軒・土坑1基・ピット状遺構66基であり、時代は8世紀後半と考えられる。出土遺物は竪穴住居跡からの出土のみで、コンテナボックス1箱を数える。



第3図 調査区配置図 ( $S = 1/300$ )



第4図 遺構配置図 ( $S = 1/100$ )



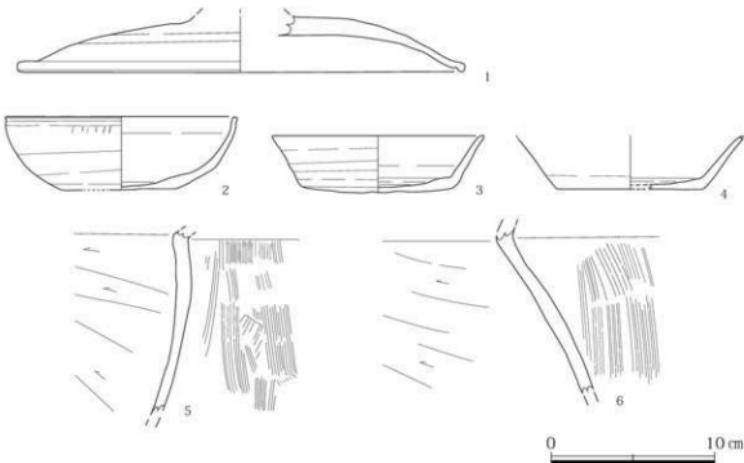
第5図 1号竖穴住居跡 (S = 1/40)

## (2) 遺構と遺物

### 1) 1号竪穴住居跡

調査II区で検出された北壁沿い中央部に竈を有する竪穴住居跡である（第5図）。住居の規模は、南東隅が調査区外に延びており未調査ではあるが、一辺3m前後の方形を呈する。遺構上部は現代の搅乱を受けているが、検出土面の標高は19.9mで、深さは約40cmを測る。1層・2層が埋土で3層が貼り床である。貼り床を掘り込む形でピット状の窪みが3ヶ所検出されたが、柱痕を確認できるような土層（6・7・8層）は無く15cmほどの浅い掘り込みであった。礎石などを置いて柱の土台としたものか。竈の上部も搅乱を受けており、竈を形成する粘土層などは検出できなかったが、住居内北東隅の粘土層（4層）が竈の残骸と考えられる。北東隅の粘土層周辺からは、遺物3・4（第6図）が、竈の埋土（5層）からは、遺物1・2・5（第6図）が出土している。E-E'の平・断面図で示す土坑は床下から検出され長径98cm、短径68cm、深さ44cmの楕円形を呈する。床下土坑からは遺物6（第6図）が出土している。遺構の時期は出土遺物や第2・3次調査検出の竪穴住居跡から、8世紀後半であると考えられる。

出土遺物（第6図）1～6は土師器。1は蓋。口径27.4cm、残存高3.4cm。残存率は7割。焼成は良好で、色調は橙色(5YR6/6)。外面は回転ヘラケズリ後ミガキ、口縁部はヨコナデ。内面はミガキ。欠損しているが外面の中央部分に微妙に上部方向に湾曲がみられる事から、ツマミ部分があったと考えられる。出土位置は竈。埋土5層の上層に内面を表した状態で検出された。2は壺。口径14.3cm、底径6.9cm、高さ4.5cm。残存率は7割。焼成は良好で、色調は橙色(7.5YR7/6)。外面は胴部は回転ヘラケズリ、内面はナデ。内面口縁部から外面口縁部にかけては回転ナデ。外面口縁部に一部工具痕あり。底部の厚みは0.5cmほどで、非常に薄い。出土位置は竈。3は壺。口径13.0cm、底径9.3cm、高さ3.5cm。残存率は9割。焼成は良好で、色調は橙色(7.5YR6/6)。内面から外面胴部にかけては



第6図 1号竪穴住居跡出土遺物 (S = 1/3)

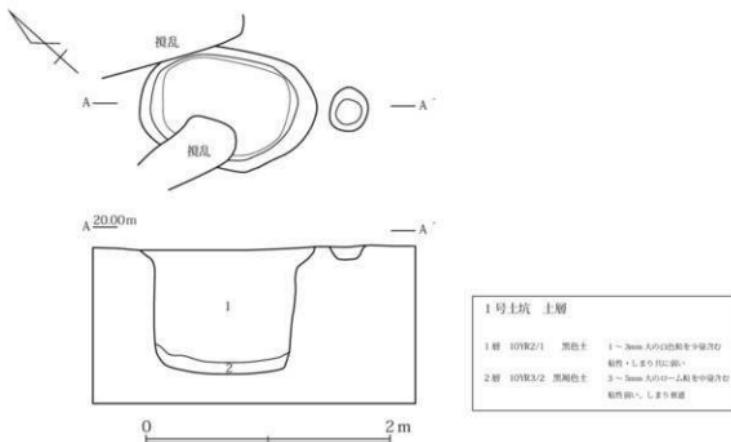
回転ナデ、底部はナデ。出土位置は北東隅。4は壊。口径 14.0cm、底径 9.0cm、高さ 3.3cm（推定）。残存率は 3 割。焼成は良好で、色調は橙色（7.5YR6/6）。外面は回転ナデ。内面は回転ナデ。底部はナデ。出土位置は北東隅。5は甕あるいは瓶。残存高 11.3cm。径は不明。残存部位は、頸部から胴部にかけての小片。焼成は良好。色調は浅黄橙色（7.5YR8/6）。外面はハケ。内面はケズリ。出土位置は竈。6は甕。残存高 10.2cm。径は不明。残存部位は、頸部から胴部にかけての小片。焼成は良好。色調は外面が、ぶい黄橙色（10YR7/4）、内面が浅黄橙色（10YR8/4）。外面はハケ。内面はケズリ。出土位置は床下土坑。

### 2) 1号土坑

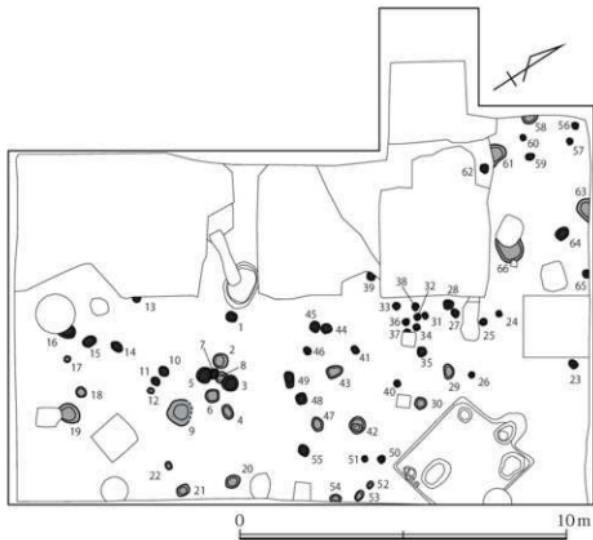
調査 I 区で検出された土坑である（第 7 図）。検出面の標高は 19.9 m。一部擾乱に切られているが長径 144cm、短径 98cm、深さ 102cm の楕円形を呈する。出土遺物が全く無く、明確な時期は不明である。埋土が黒色土（10YR2/1）主体のピット状遺構とほぼ同じであり、1 号竪穴住居跡や灰褐色土（7.5YR5/2）主体のピット状遺構より新しく、9 世紀以降の南八幡遺跡の集落域が縮小に向かう平安時代以降のものであると考えられる。

### 3) ピット状遺構

ピット状遺構は 66 基が検出された（第 8 図）。出土遺物が無く、土層断面の観察において柱痕も確認できず、深さは 30cm 前後のものが 2 基、それ以外は平均すると 10cm 前後の浅いものばかりで、掘立柱建物を構成するピット列は明確には確認できなかった。またピット状遺構の土層は黒色土（10YR2/1）と灰褐色土（7.5YR5/2）の単層のみであり、切り合いなどから灰褐色土のピットが黒色土のピットより古い時代のものであると考えられる。以上の事から、今回はピット状遺構の土層の違いによる色分けの提示と、ピット計測表を掲載するに留める。

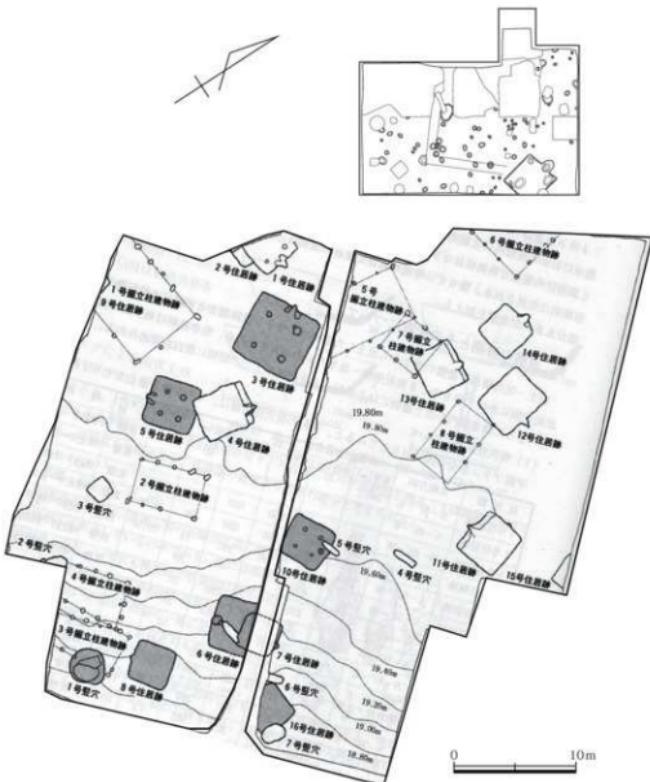


第 7 図 1号土坑 (S = 1/40)



ピット	高さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	土壌剖面	ピット	高さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	土壌剖面	ピット	高さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	土壌剖面
1	34	25	13	黒色土	23	32	25	11	黒色土	45	35	30	4	黒色土
2	45	45	10	灰褐色土	24	17	16	7	黒色土	46	23	21	7	黒色土
3	51	50	13	黒色土	25	23	21	9	黒色土	47	44	35	12	灰褐色土
4	45	30	5	灰褐色土	26	18	16	10	黒色土	48	35	32	10	黒色土
5	49	45	14	黒色土	27	29	22	16	黒色土	49	51	27	17	黒色土
6	40	39	13	灰褐色土	28	35	29	11	黒色土	50	24	22	14	黒色土
7	31	30	9	黒色土	29	47	30	11	灰褐色土	51	18	17	4	黒色土
8	42	35	6	灰褐色土	30	47	45	9	灰褐色土	52	23	17	6	灰褐色土
9	75	70	8	灰褐色土	31	20	17	6	黒色土	53	34	29	7	灰褐色土
10	31	30	7	黒色土	32	21	19	11	黒色土	54	34	22	8	灰褐色土
11	30	24	10	黒色土	33	23	22	4	黒色土	55	40	33	8	黒色土
12	20	19	32	灰褐色土	34	22	21	8	黒色土	56	22	20	7	黒色土
13	22	20	6	黒色土	35	29	27	5	黒色土	57	20	19	10	黒色土
14	39	27	17	黒色土	36	21	20	11	黒色土	58	49	37	16	灰褐色土
15	42	32	10	黒色土	37	21	20	4	黒色土	59	27	19	15	黒色土
16	50	42	9	黒色土	38	23	21	10	黒色土	60	17	16	12	黒色土
17	20	19	8	灰褐色土	39	27	26	5	黒色土	61	61	47	14	灰褐色土
18	34	33	8	灰褐色土	40	21	20	9	黒色土	62	29	24	13	黒色土
19	70	57	11	灰褐色土	41	28	22	16	黒色土	63	72	38	6	灰褐色土
20	50	38	13	灰褐色土	42	51	50	21	灰褐色土	64	45	34	5	黒色土
21	40	33	13	灰褐色土	43	50	35	8	灰褐色土	65	27	25	29	黒色土
22	26	20	6	灰褐色土	44	35	29	7	黒色土	66	90	77	15	灰褐色土

第8図 ピット状遺構 (S = 1/150)



第9図 第2・3・21次調査遺構配置図 (S = 1/400)

### (3) まとめ

今回の第21次調査地点で検出された遺構は、竪穴住居跡1軒と土坑1基およびピット状遺構66基のみであった。

竪穴住居跡は、第2・3次調査地点で検出された8世紀中ごろから後半にかけての住居跡と同じ時期のものであり、掘立柱建物跡を形成するピット列は、明確には確認できなかったが、ピット状遺構52・53・54（第8図）が、第3次調査地点で検出されている6号掘立柱建物跡を形成するピットになりうる可能性がある事から、8世紀中ごろから後半の集落域が北側にも広がる事が確認出来た。

また当調査地点の北東側に位置する第12次調査地点では、旧石器時代のナイフ形石器・剥片などの石器が、まとまって出土している事から、地山であるローム層を掘り込む旧石器時代確認トレンチ（第4図）を2ヶ所設置し、遺物の検出を試みたが、いずれからも旧石器時代の遺物の出土は無かった。



(1) 調査区全景（I区） 北東から



(2) 1号土坑全景 西から



(3) 調査区全景（II区） 北西から



(4) 1号竖穴住居跡全景 南から

遺構写真 3



(3) 1号竪穴住居跡 北東から



(4) 1号竪穴住居跡 窟 南西から



(5) 1号竪穴住居跡 B-B' 断面 東から



(6) 旧石器時代確認トレンチ② 南西から



(7) 調査区全景 (III区) 北西から



(1) 遺物 1



(2) 遺物 2



(3) 遺物 3



(4) 遺物 4



(5) 遺物 5



(6) 遺物 6

## 報告書抄録

ふりがな	みなみはちまんいせき 11						
書名	南八幡遺跡 11						
副書名	第 21 次調査報告						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 1491 集						
編著者名	中國将祥						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒 810-8621 福岡市中央区天神 1-8-1						
発行年月日	2023 年 3 月 23 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
みなみはちまんいせき 南八幡遺跡	ふくおかしはかたく 福岡市博多区 ことぶきまち 寿町 2 丁目	40132	0051	33 度 32 分 36.2 秒	130 度 27 分 39.2 秒	20210412 ~ 20210525	215m <sup>2</sup> 記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
南八幡遺跡	集落	古代	竪穴住居跡・土坑	土師器	8 世紀後半の 竪穴住居跡を検出		
要約	南八幡遺跡は、大野城市・春日市と接した福岡市の南端に位置し、福岡平野を流れる那珂川と御笠川に挟まれた洪積台地上に立地する。本調査地点の南東側では、第 2 次・3 次調査が行われており、6 世紀後半から 8 世紀後半にかけての住居跡・掘立柱建物跡が多数検出されている。今回の第 21 次調査地点でも住居跡が検出されたことから、集落域が北方向にも広がる事が確認でき、周辺における古代の遺跡や景観を考える上で重要な調査となった。						

### 南八幡遺跡 11

— 第 21 次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1491 集

2023 年（令和 5 年）3 月 23 日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神 1-8-1

印刷 株式会社親和プロセス

福岡市南区塩原 1-4-4



